

立石利蔵夫、の七名を選任し、十九日朝争議團及總同盟の連名の書面にて、争議團側の交渉委員たる前記七名と會見せられ度、然らざれば會見に應じ難し、との回答をなしたのである。之に對して會社側は前回同様の趣旨を以て本問題に労働組合の介入を容認せず、争議團長たる張俊杰を代表者と認めて同人との單獨會見をなす旨再通知を發したるも、争議團側よりは、交渉委員全部に非らざる限り會見せずと回答あり、双方二十日朝迄三回の押問答をなしたるも遂に會見の運びに至らず。

b 争議團と會社側との衝突。十八日夜十時頃争議員十三名は宣傳ビラ撒布のため、吉隈炭坑に乗り込み構内見張所に警戒中の炭坑勞務係員十數名の阻止に會ひ小競合をなして、争議團員七名勞務係員三名の負傷者

を出すに至れり。

c 相愛會飯塚支部の策動。相愛會飯塚支部長柳在風は今回の争議は日鮮融和上憂慮すべき事件なるのみならず、朝鮮人失業者の増加する結果となるとの見解を抱き、且つは本争議を以て日本石炭坑夫組合幹部たる立石利夫（鮮女を妻とす）の煽動に因るものとなし、争議解決の爲め立石利夫との會見交渉をなさんとして、十八日午後會社を訪問し其の諒解を求めて、具体的接衝をなさんとするに至つたのである。かくて争議は漸次紛糾を重ね且つ参加者漸次増加の傾向にあり、而して警察當局より會社に對して會見代表者問題に付善處方注意するところがあつた。

3 八月二十五まで

a 争議團側、會社側が争議團の主張する交渉委員との